

活動名	団体名称		公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO
	活動テーマ		子どもの健全な育成を支援する活動
	活動の目的		⑤障がい、難病の子どもへの支援活動
■ 活動結果（概要）		■ 実施スケジュール結果	■ 各スケジュールごとの活動内容
<p>・東京からは2名の医師の協力と、病児地元の訪問看護師1名の参加もあり、参加を検討してくれた医師（予定が合わず実際の参加には至らなかった）が1名現れた。2017年度に受け入れをした8病児全員が自立歩行・発語のできない子どもだったが、複数の医療関係者のサポートにより、安全な旅を提供できた。</p> <p>・SNSを通じた情報発信では、その情報を介して寄付をしてくれた方が初めて現れた半面、情報の拡散は限定的な状況のため、病児のことがわかる内容に切り替えを図る必要を感じた。</p> <p>・作成を予定していた医療従事者向けのパンフレットは情報量が十分そろわず、公開できる概要情報をまとめることに苦戦した。この成果を出すことは次年度の課題として残った。</p>		2017/9/1～ 2018/8/31	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病児とご家族の現状を把握・理解（フィジビリティ・スタディ）。 2) 留意点の洗い出し、内容を取りまとめてパンフレット作成（1000部） 3) 作成したパンフレットを関係医療機関に配布する。 4) 学会ブースから医療従事者へ広報・参加の呼びかけを実施 5) ボランティア参加してくれる医療従事者の人数を増やし、2017年度末までに移動時同行医療スタッフを5名確保する。 6) SNSで本事業の内容を発信、ページの「いいね！」を200獲得する。
■ 活動目標	医療器具が常時必要な病児の旅行支援に特化し、類似の他団体との棲み分けをする。 小児科・救急救命に携わる若手医師によるボランティア参加を促す。 医療従事者向けのパンフレットを作成する。		
■ 長期成果	医療従事者のボランティア参加人数を増やし、ご家族だけでは旅行が難しい医療器具を使用している病児でも、医師やパラメディカルスタッフのボランティア参加を促すことで社会への参画が可能になる仕組みを作る。		
活動風景			
			
飛行機内のストレッチャー（簡易ベッド）設置の様子	飛行機内で病児母と情報共有をする医師	病児の様子を機内で確認中の医師	
■ 得られた成果と今後の課題	■ 受益者や地域社会の変化	■ 得られたノウハウの共有・発信	
<p>【成果1】病児とご家族の移動への医師同行により、飛行時の安全配慮に必要な点の洗い出しができた。</p> <p>【課題1】内容をまとめて医療関係者へ配布できる資料の作成も試みたが、個人情報公開が難しく完遂できなかった。</p> <p>【成果2】参加してくれた医療関係者は3名となり、これまでよりも幅広いサポートの輪ができた。</p> <p>【課題2】旅行の予定が中止・延期となることも多く、参加人数は目標としていた5名を下回った。</p> <p>【成果3】SNS（Facebook）を活用した本事業の内容を発信し、ページの「いいね！」は200を超えた。クレジット募金にもつながり、広報・支援の裾野の拡大が実現できた。</p> <p>【課題3】発信する情報に細心の個人情報保護を要し、発信内容のレベルが不十分だった。内容の質の向上は来年度の大きな改善課題となった。</p>	<p>【1 難病児とご家族】 医療従事者の同行により、より安心して遠距離の移動ができるようになった。旅をきっかけに帰宅後も前向きな気持ちで日々の生活を送れる契機となった。</p> <p>【2 小児科医療に従事する人】 医療行為とは異なるボランティア体験を通じて、団体の事業改善への積極的なアドバイスが得られた。また、参加の満足度が高く、次年度も継続して協力を得られることとなった。</p> <p>【3 ボランティア】 SNSでの情報発信を通じ、ボランティアに参加している人への情報発信の機会が増えた。半面、一方通行になりがちだったため、発信する内容の精査が必要だと気づいた。また、情報の拡散は不十分だったため、引き続き発信力を高める努力が必要だと感じた。</p>	<p>【1 医療関係者向けの発信】 ボランティア参加をする際の留意事項、協力先のクリニックリストなど、必要なものの洗い出しができた。とりまとめ後に配布・対面説明を行うことで、さらなる参加・協力者の増加が見込まれる。</p> <p>【2 ボランティア・支援者向けの発信】 発信の回数は大きく増加したが、内容が十分でなく、限定的な情報発信にとどまった。とくに、病児とご家族の様子が十分に伝えられていないため、この点は個人情報の配慮を怠らない形でもう少し踏み込んだ内容を伝えなくてはならないと強く感じた。</p> <p>【3 ご家族からの声】 旅を通じて感じた思いを聞かせてもらい、彼らの声を医療者・ボランティア・支援者全員に一層伝える必要があると思った。</p>	
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-10-59 ヴィラゾン202 公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO (ホームページ) : http://http://questhouse.or.jp/			助成金額 500,000円 助成期間 H29.9.1～H30.8.31

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。